

しんまちだよりネットワーク版

🍊オレンジサロン(認知症家族介護者教室・懇談会) 報告

9月28日に認知症の家族を介護されている方や、認知症に関心のある方たちの交流の場として、第3回目のオレンジサロンが開催されました。その一部をご紹介します。

認知症疾患医療センター青柳先生のミニ講話



青柳先生

今回のテーマは「医療・病院へのつながり方」🍊🍊🍊🍊🍊

❖自分の物忘れが心配な時・・・「物忘れ外来」の表示のある病院を受診する。どこの病院が良いかわからない時には、府中市のホームページにある「物忘れ相談医」の一覧を参考にしたり、包括支援センターに連絡して聞いてみると良い。

❖本人が受診を嫌がる時・・・「健診に行ってみよう！」または「自分が受診するから付き添ってほしい。」と誘ってみる。「自分は認知症ではないから」と受診拒否する方でも、「健診ならば行ってもよい。」「付き添いなら行く。」と、受診につながる場合があります。その場合には、受診先の病院に、本人にどのように説明して連れてきているかを、事前に伝えておくことが大事。病院の窓口で、スタッフにその説明のメモを渡し、配慮してもらうと良い。

❖認知症は脳の病気だが、診断には身体面の情報も重要。そのため内科の主治医がいれば、主治医から専門医に紹介してもらう方法も良い。それが難しい場合には“お薬手帳”や“血液検査の結果”など、健康状態がわかる資料を持参して受診すると良い。

❖多くのクリニックに「家族相談受診」の相談窓口がある。どうしても本人の受診が難しい場合には、まずは家族だけで相談することもできる。ただし、本人不在の相談は自費診療になるため、30分で1万円前後の費用がかかることが多い。

❖診察の限られた時間の中で、必要なことを簡潔に伝えるためには、相談内容を事前に文章にまとめておき、それを医師に見てもらおうと良い。伝え忘れも防ぐことができる。

青柳先生は9月末で根岸病院を退職され、11月から市内で認知症外来、心療内科、精神科のクリニックを開業予定との情報提供もありました。



オレンジサロンでは毎回、青柳先生のミニ講話と参加者の方たちの懇談会、認知症に関する地域の情報提供を行っています。今回の情報提供では日野市にある「多摩若年性認知症 総合支援センター」の紹介がありました。65歳未満で認知症を発症した方たちの医療や就労、経済的支援など、様々な相談の窓口になっています。若い方ならではの不安や心配に対応できる窓口です。詳しい情報が知りたい方は、包括しんまちまでご連絡ください！

次回のオレンジサロンは11/26(土) 14:00から、包括しんまちで実施予定です。青柳先生のミニ講話のテーマは「症状への対応」です。“認知症の情報が知りたい”“同じ立場の人と話したい”方は、ぜひご参加ください。申し込み窓口は包括しんまちです。みなさんのご参加をお待ちしています◎



2022年11月1日発行

地域包括支援センターしんまち TEL042-340-5060 FAX042-340-5622
e-mail: sinmachi-kg@t-kenseikai.jp 認知症地域支援推進員 山口
ネットワーク担当 野中